



# 鳥取市の先取りのまちづくりと 中心市街地再生・ノルデ運動 (案)

平成24年4月20日改訂  
鳥取市役所都市整備部



# 先取りのまちづくりの目標

## (目標)「人を大切にするまち」の実現

「人を大切にするまち」とは・・・

- ①住みたい地域に住み続けられる
- ②幅広い選択肢から生活に必要な品物やサービスを選べる
- ③年を経ても安心して暮らせる
- ④災害の不安が無い

上記の4点について、鳥取市は市民との協働のもとまちづくりを進めてまいります。



# 人を大切にするまち①

- ① 住みたい地域に住み続けられるためには、日常の用が足せる場所や交流の場ができるだけ近くにあることが必要だと考えています。

(引き続き各支所や周辺の拠点等の日常生活を支える機能の向上に努めつつ、その地域らしいまちづくりに取り組んでいきます。)

- ② 幅広い選択肢から生活に必要な品物やサービスを選んでいただきたいと考えています。しかし、普段使わないものを置くお店はどこにでも出店してくれる訳ではありません。そのため、必要な時にお店のある場所にできるだけ便利に出かけていただけるようにします。

(お店や病院が集まっている駅前などの拠点の維持・活性化とバス路線などの公共交通の維持や利便性の向上に取り組んでいきます。)



## 人を大切にするまち②

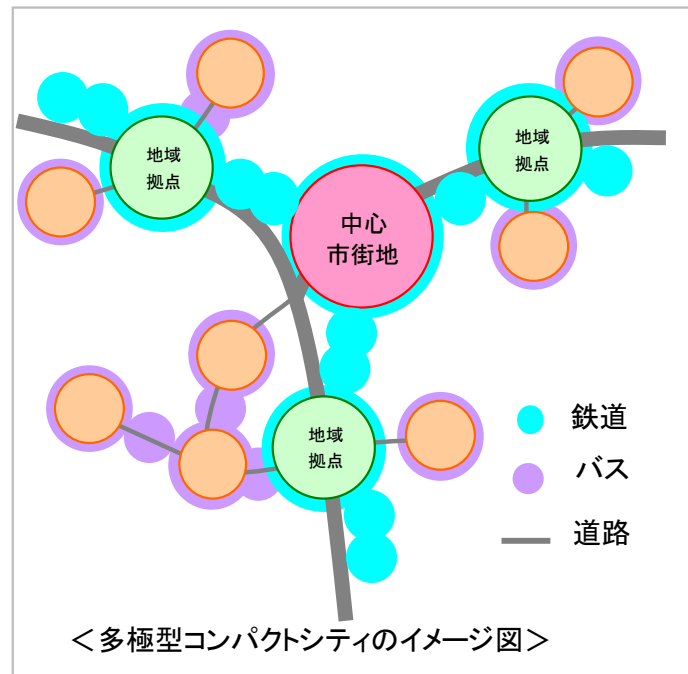
- ③ 年を経ても安心して暮らしていただくためには、御自分や、  
運転を頼んでいた御家族が自動車の運転をやめても、出かけるのに不自由を感じないように、乗合バス・乗合タクシーなどの公共交通が維持されていることが必要です。  
(乗り継ぎ拠点の整備など、バス路線などの公共交通の維持に取り組んでいきます。)
- ④ 災害の不安を取り除くためには、避難できる場所を確保すると共に、  
救援・復興に速やかに取り組むことが大事です。  
(避難所になる公共施設の耐震化を早急に進めます。同時に、避難してきた方を守り、復興を支える人員、物資を速やかに県内外から集め、救援・復興の拠点となる各支所に送り込めるような仕組みづくりに取り組んでいきます。)



# 鳥取市の「多極型コンパクトシティ」

- 鳥取市では、これらを実現するまちづくりを、以下のような絵にして、「多極型コンパクトシティ」と呼び、「鳥取市第九次総合計画」「鳥取市都市計画マスタープラン」などに位置付けています。

(イメージ)



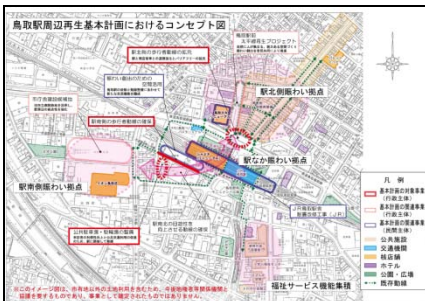
なぜ多極型コンパクトシティの  
まちづくりが必要なのでしょう？



# 拠点と公共交通を一体的に再生 しなければ持続できないためです

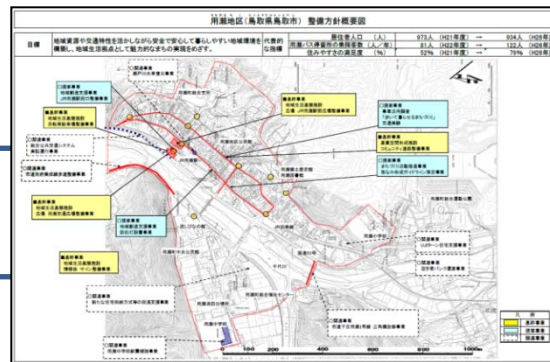
- ・公共交通で到達できる場所に拠点を維持することで、公共交通しか移動手段が無い方にも幅広い選択肢を提供し、また年齢を重ねても安心して暮らすことを可能にします。
- ・同時に、見過ごされがちですが、拠点が維持されていなければ、公共交通の利用者数を維持することは困難です。利用者の減少で採算が合わなくなれば、便数減と利用者減の悪循環につながっていくことになります。

## 中心市街地拠点の 計画策定



(例) 鳥取駅周辺の計画

## 地域生活拠点の計画策定



(例) 用瀬地区の計画

各地域の実情  
に応じた  
公共交通確保



# 多極型コンパクトシティの取り組み

(1) 各拠点の維持・発展に併行して取り組んでいます

- ・普段使いの拠点(地域生活拠点)

←平成23年3月には用瀬地区のまちづくり計画を策定しており、今後順次取組を広げていきます。

- ・中心市街地など特別な拠点(鳥取駅周辺・鳥取城周辺など)

←平成19年に中心市街地活性化基本計画を定め、国の認定を受けました。鳥取駅周辺地域では、平成25年春に駅前太平線に大型屋根や芝生広場が整備されるのに併せ、新たな店舗の誘致に積極的に取り組んでいます。

(2) 幅広い地域をカバーする交通手段の確保に取り組んでいます

- ・自宅から普段使いの拠点への交通手段

- ・普段使いの拠点から特別な拠点への交通手段

←平成24年秋には南部地域でバス路線網再編の実証実験を行います。(現在のバス路線網を幹線・枝線に再編し、上記の両方の交通手段を効率的に確保する試みです。)



# 公共交通ネットワークの維持(1)

- 当面は自分で、もしくは家族の誰かに自家用車を運転してもらうことで日常の用は足せるかもしれませんが、しかし、高齢化が進むにつれて、自動車の運転をすることに不安を感じる方が増加しています。住みたい地域に住み続けるためには、必要な時には公共交通が使える状況を維持する必要があります。
- 公共交通は、行政・交通事業者・地域住民が「共同で運営する仕組み」です。それぞれが役割を分担し、「持続可能な」「使いやすい」公共交通サービスを工夫していくことが求められます。





## 公共交通ネットワークの維持(2)

- 皆で乗れば(皆が税金で分担している分も含め)コストが下がっていくのが公共交通です。
- 鳥取市では「人を大切にすまち」を実現するため、バス路線網の再編、「ノルデ運動」などの利用促進に取り組んでいくこととしていますが、まちを支えるためだけの理由で公共交通の利用者を増やせるとは考えていません。公共交通で行き来できる拠点がそれぞれ魅力的、あるいは一定の用を足せる場所であればこそだと考えています。
- そのために、拠点の維持・活性化と公共交通手段の確保の両面に併行して取り組んでいます。



# 交通手段確保の面からも重要な 鳥取駅周辺地域の再生

- 拠点の維持・活性化と交通手段の確保とが不可分であることが、鳥取市が鳥取駅周辺地区を特別な拠点とみなしている重要な理由の一つです。
  - ① 鉄道駅は(他の商業施設等と比較して)位置が変わりにくく、取り組みの成果が長期に渡って活用される可能性が高いと考えています。
  - ② 鉄道・バス・タクシー・自家用車(駐車場利用)を選択・乗継できる拠点は、今後運転者が減少する中で重要性を増すと考えています。(また、駅周辺の施設は、運転しない方も含め多くの方に活用される「まちの顔」であると言えます。)
- 駅周辺だけが拠点だと考えてはおりませんが、明らかに特別な拠点である駅周辺の整備等を後回しにすることは適切でないと考えています。



# 鳥取市中心市街地の 活性化スケジュール(1)

## ①平成24年春

- 合銀の跡地に活性化施設(コミュニティ・キッチン&マルシェ)オープン  
【街なかに市民が必要とする拠点施設を増やしていきます】

## ②平成25年春 鳥取道全線開通予定

- 太平線シェルター竣工  
【駅の北側の活性化の拠点となります】
- 新くる梨(緑ルート:2核2軸循環線)  
【中心市街地の拠点同士の相乗効果を生み出します。】

## ③平成26年春

- JR東西通路(シャミネ含む)のリニューアルと併せ、駅北側の歩行者動線を確認。  
【駅の南北を接続し、活性化します】
- 戎町プロジェクトの竣工  
【街なかに住み続けるための防火帯建築の更新モデルとなります】



# 鳥取市中心市街地の 活性化スケジュール(2)

## ④平成27年春(検討中)

旧市立病院跡地の整備・鳥取駅南地区の賑わい創出  
【鳥取駅南側を活性化し、中心市街地に波及させます】

## ⑤平成29年春(検討中)

現本庁舎周辺の整備  
【鳥取城跡周辺地区に市民生活に役立つ施設を増やしていきます】

次期「中心市街地活性化基本計画」に向け検討を継続  
(平成25年4月～平成30年3月見込み)



# ノルデ運動の促進(1)

○「ノルデ運動」とは自家用車の利用が困難な方だけでなく、自家用車が利用可能な方にも、積極的に公共交通を利用いただき、皆で「人を大切にするまち」を実現していく仕組みの提案です。

(ノルデ運動による総合施策(案))

## (1) ノルデ運動の広報

- ・ノルデ運動キャラクター募集
- ・ノルデ運動PR広報

## (2) エコ通勤の促進

- ・バス路線網の再編
- ・エコ通勤キャンペーン
- ・南部地域実証運行におけるノルデ運動参加者の募集
- ・地域別時刻表の作成

## (3) 公共交通の利用環境改善

- ・バスアテンダントの導入
- ・高齢者向けバス定期券の割引等
- ・通勤ネックの解消方策についての検討
- ・ICカードの導入
- ・市内循環線の検討

## (4) 自家用車とそれ以外の交通手段の役割分担の提案

- ・街なかでのレンタサイクルの活用促進
- ・各施設のパーク&ライド(注)の利便性向上
- ・大型イベントにおけるパーク&ライドの実施

ノルデ運動を総合的に促進することで、少ない負担で公共交通を維持することが可能になります。

(注)パーク&ライド:自動車から鉄道やバス、自転車への乗り継ぎ

# ノルデ運動の促進(2)

街なかへの公共駐車場・駐輪場の整備等と併せてパーク&ライド(自動車から鉄道やバス、自転車への乗り継ぎ)等のソフト施策の展開に取り組めます。  
(平成24年度に実施する中心市街地活性化基本計画の見直しの中でも促進策について検討を進めていきます。)

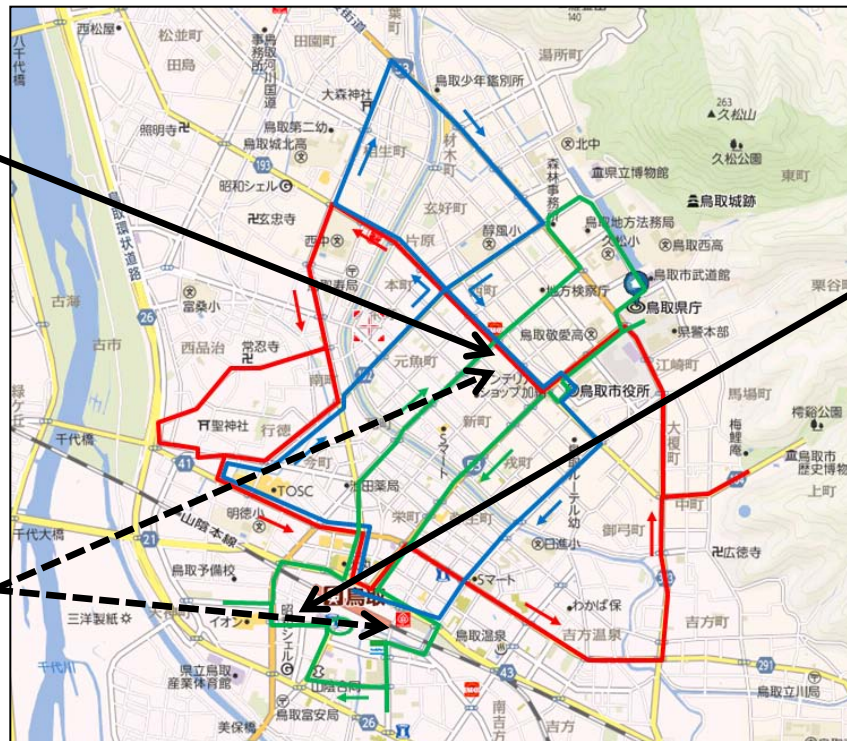
(例1)市営片原駐車場では、駐車場御利用の方はレンタサイクル無料(平成24年度～)



(例2)レンタサイクル利用者限定割引クーポンを提供(平成23年度～)



(例3)鳥取市100円循環バス緑コースの新設(平成25年春運行開始に向け検討中)市営片原駐車場と連携(その他駐車場とも順次連携)



(例4)駅周辺におけるバリアフリー化を促進すると共に、公共駐車場の整備等に併せて、民間と連携しつつパーク&ライドを一層促進します。



(鳥取駅南口に整備される公共駐車場・駐輪場は平成26年度供用開始予定)



# まとめ

鳥取市は引き続き拠点の維持・活性化、交通手段の確保の両面から「人を大切にするまちづくり」に「先取り」で取り組んでいきます。

皆様のご協力をお願いいたします。

- ・住みたい地域に住み続けられるまち
- ・幅広い選択肢から生活に必要な品物やサービスを選べるまち
- ・年を経ても安心して暮らせるまち
- ・災害の不安が無いまち



# (参考)鳥取市のまちづくり検討経緯

平成23年9月 鳥取駅周辺再生基本構想策定

(鳥取駅周辺再生基本構想策定検討委員会)

→平成24年2月 鳥取駅周辺再生基本計画(案)公表

平成24年2月 現本庁舎周辺地域の活性化・跡地活用に関する基本方針案(最終報告)公表

(現本庁舎周辺地域活性化検討委員会)

平成24年4月 次期「中心市街地活性化基本計画」検討開始

(鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会)

(以下予定)

平成24年9月 次期計画(案)公表・国(内閣府)への協議開始

平成25年4月 次期計画施行